

議 事 録

議事の名称		R 5 年度第二回誰もが遊べる公園広場整備のためのガイドライン検討会議		
開催日時		令和6年3月30日(土) 開会: 10時00分 閉会: 12時00分		
開催場所		守谷市役所 3階 庁議室		
事務局(担当課)		都市整備部建設課		
出席者	委 員	町田会長、藤田委員、古谷委員、清委員、須賀委員、奥谷委員 青山(秀)委員、草間委員、村山委員、小路委員、桃澤委員、藤門委員、長津委員、小菅委員、青山(真)委員、浅野委員 (出席16名/16名)		
	事務局	(建設課)奥野課長、鈴木課長補佐、大久保課長補佐、飯沼係長、遠藤主任、武藤主事、稲葉主事 (ジャクエツ)上野氏、澤村氏、白井氏、瀬尾氏 (オオバ)望月氏、出口氏 (計13名)		
公開・非公開の状況		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0 人
公開不可の場合はその理由				
議事次第		1 開会・資料確認 2 協議事項の説明 3 意見交換 4 今後のスケジュールの説明 5 その他説明 6 閉会		

確 定 年 月 日	会 議 録 署 名
令和 6 年 5 月 2 日	町田 誠

審議経過

1 開会・資料確認

2 協議事項の説明

- ・事務局より、守谷市誰もが遊べる公園広場整備ガイドライン策定業務の資料説明（A3）

3 意見交換

- ・町田会長：アンケート配布方法は広報だけか。回収結果が少ないが、アンケートは紙でも提出できるようになっているのか。公民館などでも回収できるようにしていないのか。
- ・遠藤主任：広報の QR コードからの回答と、市役所建設課で回答用紙を配布できるようにした。
- ・奥野課長：回答用紙を公民館など各地区に置くことも考えたが、過去の実績から回収率は良くない。
- ・藤門委員：アンケートの電子回答は 164 件で、そのうち紙媒体の回答は何件か。
- ・遠藤主任：6 件。
- ・藤門委員：アンケートは広報に回答用紙を添付するなど回答率を上げる方法を検討して欲しい。ファミリー世帯や高齢者の声を多くとらえてほしい。
- ・奥野課長：当初は広報に回答用紙の添付も考えたが、広報担当の秘書課に相談したところ、広報もりやの仕様上、添付できないことが分かった。また、過去の実績で、用紙による回答率も少ない。今後、この業務で社会実験により市民調査を予定しているので、そのような機会でも情報を収集したい。
- ・藤田委員：北守谷地区では、アンケートに協力してもらえるように働きかけたが、結果は回答数が少なかった。しかし、多い少ない関わらず、回答パターンは似たようなものになると思う。このデータは地区で紹介したい。
- ・青山委員：「Q5 公園に行く理由について」の回答が「自宅に近いから」という設問はおかしい。「Q1 市内の公園はよく利用しますか」について、週 1 回以上利用するとの回答が半数近い結果だが、実態は違うのではないか。人口 7 万人の半数だと 3 万人以上が利用していることになる。実態を把握するなら、公園に行って調査しないと分からないのではないか。
- ・奥野課長：アンケートを再度実施する予定や全公園利用者数調査等の予定はない。今回のアンケート結果で傾向が分かれば良いと考えている。
- ・町田会長：P9 パターン 1「ファミリー世帯」やパターン 2「働き盛り世帯」とは何か。
- ・奥野課長：パターン 1 は、松並地区が該当し、小さい子供が多い世帯、パターン 2 は守谷駅周辺の中央地区で、都内などへの通勤者が多い世帯として区分した。
- ・藤門委員：P10 のパターン別にどの公園が該当しているか公園名を記載してほしい。
- ・町田会長：パターン別の欄に公園名の記載があった方がわかりやすい。または、P11 の市域の図の中にパターン毎の公園が分かるようにしても良い。
- ・事務局：スクリーンでパターン分けしたエクセル表を表示。
- ・奥野課長：今回の議事録と合わせて、パターン毎に色分けした資料を委員に配布する。
- ・清 委員：トイレがない公園が多いので、優先的に設置してほしい。参考として、高野地区（美園明神公園や梅作公園）では、こいのぼりまつりを行っている。このようなイベントを行う公園は、利用頻度も多いのではないか。

- ・町田会長：都市公園にはトイレの設置義務はないが、守谷市の公園は新しい場所ほどトイレが少ない印象である。
- ・奥谷委員：みずき野地区は人口減少が多く老年人口が多いと説明があったが、この資料は2020年のものである。実感としては、みずき野地区では建替が多く、若い世帯も増えていると思う。10年先を見据えた公園のガイドラインを考えてほしい。
- ・町田会長：資料は、国勢調査の2015～2020年までの情報を使用している。ガイドラインは、将来を見据えて考えた方がよい。
- ・藤田委員：パターンの見直しはあるのか。3～4年後に見直してはどうか。
- ・奥野課長：都市計画マスタープランは、10年先を見据えながらまちづくりを計画している。公園ガイドラインも、作って終わりではなく、5年から10年など区切りをつけて見直し、更新していくことも大切と考えている。今回は、まず方向性を決めていきたい。
- ・奥谷委員：みずき野中央公園のプールが老朽化に伴いなくなることになった。このプールは、障がいを持った方が使用するのに適した温度（32度）設定になっているため、市外からも利用する方が多い。
さくらの杜公園は、何もない公園だが、自由に何でもできる。バラエティーなど、どんな方向性が良いのか考えていきたい。
- ・町田会長：機能別に特化させるなど、一つひとつの公園について、テーマやコンセプトを決めたい。機械的な作業だけで作らないようにしたい。
- ・柊澤委員：公園は開発行為で整備されることが多い。公園を作った後に変更することは難しい。トイレについては、美園の梅作公園は、男女共同のトイレだが、路上生活者などがトイレにこもっていることもあるので、防犯上の観点から、男女別にして、膝から下が見えるような、誰かがいることが分かるようなトイレが良いと思う。トイレなどの施設に防犯面で対策するためには予算も必要で、都市公園も整備した後は国の補助金も使えない。
(注釈：公園長寿化事業として交付金措置あり)
- ・清 委員：今回のパターン分けは大切だと思う。将来はこのパターンに移っていく。
- ・町田会長：次回の検討会では、公園の改修方法などで評判の良い事例を写真で紹介してほしい。
- ・小路委員：公園を変えていくことは大切だと思う。公園利用のニーズに変化があったとき、意見を聞いてどのように変えていくべきか、また、住民参加の方法やどんな遊具が必要か、ニーズやパターンの変化など、ガイドラインを更新しやすいものにした方がよい。
また、タイトルに「誰もが遊べる・・・」とあるが、公園を使いにくい人たちとはどんな人たちなのか、調査は必要だと思う。
- ・町田会長：「誰もが」の対象をどこまでにするか。遊びにくいと感じることや使いにくいと感じることを改善していくことが大切である。次回検討会の前にワークショップが予定されているので、調査方法を良く検討してほしい。
また、他の公共団体の取組、事例について、バリアフリーやインクルーシブ

の具体例等、現物の事例を次回の検討会で紹介してほしい。

- ・奥谷委員：建設課は、他のまちづくり協議会にこの検討会の内容は共有されているか。議事録をまちづくり協議会の代表に共有してほしい。
- ・奥野課長：委員の皆さんは、まちづくり協議会などの代表として参加いただいている。各地区や組織への周知は、委員各位にお願いしたい。印刷などは、ご依頼があれば用意したい。
- ・長津委員：数年前のインクルーシブ公園計画検討会の意見書はどこへ行ったのか。
- ・奥野課長：確認する。
- ・町田会長：次回の検討会のときにその意見も共有してほしい。
- ・小菅委員：バリアフリーは基本としてほしい。公園の芝は車いす利用にはとても大変である。クッション性のあるゴムチップ舗装等はケガなどしにくくて良い。トイレには、ユニバーサルベッドを大型公園にいくつか設置すれば、長時間公園を利用する子どもがいる世帯に有用。和式から洋式へ変えてほしい。ベンチやテーブルも全部同じ仕様ではなく、車いすの方も使いやすいように、テーブルの下に車いすのまま入れる仕様の物を置くなどしてほしい。花壇は、車いすやベビーカーの高さでも楽しめるような工夫も良い。
- ・町田会長：芝生、車いす対応トイレ、駐車場、ユニバーサルデスクなどの有無について、事例の情報が欲しい。P10の パターン毎の詳細事例はあるのではないかな。資料はコンパクトにまとめられているが、実際には記載できる内容はたくさんあると思うので整理すると良い。全国の公園で成果が出ている良い事例があるはずなので、共有してほしい。次回の検討会で、考えるための材料を用意すること。
- ・藤門委員：かまどベンチや防災井戸も検討願いたい。遊具以外の機能をもった防災設備を備えた公園整備も検討願いたい。
- ・町田会長：防災設備を備えた公園がわかる地図や防災設備のガイドラインなど、地域防災計画での公園の位置づけを確認してはどうか。
- ・藤門委員：令和4年度に立沢公園のインクルーシブ公園計画について、建設課から北連協会長に説明されたが、様々な意見があり、中止となった経緯がある。防災面などで、様々な部門の有識者を集めてプロジェクトチームを作るような壮大な計画でなければ進められないと思う。担当が変わるたびに地区との協議が途絶えるようなことがおきないように、横の連携、情報の共有をしてほしい。
- ・奥野課長：予算規模としては、公園植栽管理などの維持管理だけで、年間約5億支出している。昨年からのガイドラインの策定を行っているため、公園施設の更新などを止めている状況。行政が独断で遊具施設等を更新するのではなく、地区の方の意見を反映するため検討会を組織した。まちづくり協議会と行政が調整し、ガイドラインに反映して、更新・改修を行っていききたい。優先順位を含めガイドラインの使用法などの意見をいただきたい。
- ・清 委員：各々の公園を整備するときは、市民やまちづくり協議会の意見を聞いた方が良い。

- ・藤田委員：北守谷地区まちづくり協議会の環境整備部は、地区の植栽管理などを自治会長に説明している。公園整備には、環境整備部を活用してほしい。
- ・青山委員：東京目黒の公園の多目的広場は、予約で埋まっている。守谷でも、イベントに関連付けた更衣室やロッカーなどの設備を検討し、イベント目的で集まれるような公園も検討してはどうか。
- ・町田会長：ガイドラインの運用として、P11 大きい公園の利用の提案にあてはまる。
- ・柊澤委員：安全管理は大切で、整備後の公園管理は市任せではなく、まちづくり協議会や自治会など近隣住民も協力するべきだと思うので、ガイドラインに記載してはどうか。
- ・町田会長：管理費を減らす方法も検討すると良い。

4 今後のスケジュールの説明

- ・遠藤主任：今後のスケジュールについて、議事録や本日の検討会で提示依頼のあった資料をまとめ、委員にお送りする。6月頃ワークショップを開催し、その後、第3回検討会を予定している。
- ・奥谷委員：ワークショップの公募方法や、人数制限について伺いたい。
- ・ジャクエツ：広報や市ホームページで募集し、かつ、検討委員の皆さまから地域の方へ声かけをいただきたいと思うが今後調整したい。人数は10～20名を想定。
- ・町田会長：30名くらいいてもいいかもしれない。
- ・小菅委員：ワークショップは子どもも参加可能か。
- ・ジャクエツ：可能である。ワークショップの概要については建設課と調整する。

5 その他説明

- ・藤田委員：3月末でまちづくり協議会を退任するので、次回からは塚原氏が後任となる。

6 閉会

以上